

令和6年度 第4回東京都相談支援従事者研修検討会 議事録【要旨】

日 時 令和7年3月14日（金曜日） 14時から15時30分まで

出席者 吉川委員、稲垣委員、神作委員、芝委員、蛭川委員、高江洲委員、藤田委員、古橋委員
美濃口委員、安井委員、横田委員

欠席者 なし

傍聴 4名

事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長外川 他4名

1 開会

事務局	- 資料確認 次第 資料1 第4回相談支援従事者研修検討会検討チーム報告書 資料2 令和6年度東京都相談支援従事者研修検討会 活動報告（事務局案） 資料3 令和7年度相談支援従事者研修検討会 検討チーム編成（案） - 傍聴として、指定研修事業者が参加している。また、記録のため速記者の方が参加をしていること、会議の内容の録音についてご了解いただきたい。 - 第4回検討会の資料公開については、議事録要旨と併せて、委員の皆様を確認していただいた後、公開予定となっていることについて、了承いただけるか。
各委員	（了承）
吉川委員長	本日の検討事項は、次第にあるとおり、4点。各検討チームからの報告と引継ぎ事項、相談支援従事者検討会の活動報告事務局案の確認、令和7年度の検討体制について、その他となる。

2 検討事項

（1）各検討チームからの報告と引き継ぎ事項

吉川委員長	- 検討事項1、各検討チームからの報告と引き継ぎ事項について。 - 内容整理、人材育成、各チームのリーダーから、今年度の取組の内容、成果や課題、次年度への引き継ぎ事項、ほかのチームから意見が欲しいこと、この場で検討が必要なこと等について、5分程度で報告願いたい。 - まず、内容整理チームの美濃口副委員長に報告いただきたい。
美濃口副委員長	- 資料1により、今年度の成果、取組は大きく三つ。 - 一つは、「私たちが目指す相談支援専門員の姿（以下「目指す姿」という。）V e r . 9」として作成してきたものは、行政向け資料にすることとした。チームで検討・作成しているが、完成には至らず、この後皆様と意見交換したい。 - 新事例に基づいた計画について、時間の経過も含めて、変更した。これ以上は変更せず、確定とし、現任、初任それぞれの研修教材へ反映をお願いする。 - 最後に、補助教材については、講義動画をキャプチャリングし、Y o u T u b e で限定公開した。視聴回数については、初任コース受講者に向けた動画が6

	5回、初任者研修のファシリテーター向けが25回から92回なので、チームでは、次年度もこれを活かすほうが良いのではないかと話している。 ・次年度への引継ぎ事項は、先ほどの行政向け資料の作成と、補助教材。補助教材については、今年度のもを次年度も使用したいと考えている。 ・新事例も固まったので、次年度の内容整理チームの体制については、後ほど検討したいと思っている。
吉川委員長	・チームメンバーから、補足等なければ、意見交換を行いたい。次年度の内容整理チームの取組について、意見があればお願いしたい。
美濃口副委員長	・意見をいただきたいのは、次年度の体制について。資料3にある、課題別チームのイメージにあるとおり、サポーターについて検討するチームをつくってはどうか。ほかのチームに所属しながらサポーターの検討もするのは難しいので、現在のチームでやるべきことが減っているのであれば、そのようなやり方はどうかという話が、前回のチームの打ち合わせで出た。このあとの資料3のところで、意見をいただきたい。
蛭川委員	・補足だが、内容整理チームの課題に関しては、おおむね整理した。三つの研修のつながりや、使用するツール、事例の内容、ファシリテーター等への教材という部分を整えた。 残っているのは、目指す姿についてだが、それ以外にも整理したほうが良いことがあれば、ぜひご意見をいただきたい。新たな検討事項があれば、内容整理チームもしっかり残しておくし、皆様にもある程度整理できたと思ってもらえるなら、サポーターをもう一度導入するために検討会として検討する場が欲しいと考えている。皆様のご意見を聞きたい。
芝委員	・内容整理チームでやるべきことか分からないが、研修で使用するツール、初任者研修で言えば、5 P i c s やニーズ整理についての検討はどこですればよいだろうか。詰め込み過ぎて難しいとか、順番や、やり方を変えたほうが良いのではないかという話がよくでているので、提案、質問した。
蛭川委員	・私が加わった当時は課題別ではなく、研修別のチームが検討会内にあった。初任者研修チームが作成したものをベースに、微修正をして、その後の修正についてが、ある意味課題で、タイトな時間と、膨大な中身であるために、やり切れないところがあったのは事実。なので研修別チーム、課題別チームどちらのチームで検討するのが良いだろうか。
芝委員	・そのとおりで、初任研修について、次年度の内容は別として、2年、3年かけてでも、今後どうしていくかという検討は、引き続き必要なのではないかと感じている。
吉川委員長	・全体を見渡しての話は、資料3の提案に入るか。
事務局	・一つ、確認したいのは、芝委員の話は、来年度の体制に絡めてというよりも、長期的なスパンを見据えての意見ということでよろしいか。それとも、サポーターの導入と、同時並行的な話になるのか、それによっても異なるかと思う。

	・ 検討会の場でいきなり初任研のツールをどうするか検討するのはかなり難しいので、恐らく一回は初任研チームで、ツールのどこに課題があり、どのように修正できると良いか検討し、それを検討会の場で、どこのチームで話し合うか、決められると良いと思ったが、どうだろうか。
安井副委員長	・ 初任研というよりも、研修全体に関係すると思う。主任研でも、使用しているツールについての意見が出ているので、長期的に見て、研修の在り方は考えていかなければならないということと同時に、国の動向も見据える必要がある。令和2年度から、新カリキュラムになったが、また、どこかのタイミングで新カリキュラムになる可能性があれば、それを見据える必要もあるが、どこの場で検討するかは難しい。 ・ 検討会でやるには、ボリュームがあるので、サポーターの検討のように、時限的にチームをつくるなどしないと、検討委員で何でもはできないと思うし、そこは今この場で決められない。しかし、研修全体をということであれば、初任に限らず、主任や現任、専門コース別も含めて、全体の検討は必要かと感じた。
吉川委員長	・ 目の前のこととしては、内容整理チームの扱う内容は何かということで、一つを残して、課題整理はできた。 ・ 今後、さらに全体を見渡して、それぞれの課題の整合性などについては、いつかこの場で議論に乗るだろうか。
事務局	・ 安井副委員長が話した、全体を貫くものの話なのか、初任研でしか使用していないツールの話なのかにもよると思う。 ・ 次年度、初任研チームで打合せを行う際にそのような議論になった場合には、そこで検討したのちに検討会に提案をすることになるかと思う。
蛭川委員	・ 5 P i c s や、ニーズ整理表を使い始めたころは、難しくて混乱も生じたかもしれないが、ファシリテーターの理解も深まったので、意見が出てきた。 ・ ツールを変えるより、その使い方を初任研チームで、もう1度整理していくことと、サポーターをどこに導入するか検討する必要がある。サポーターの件は、初任研チーム検討することもできるが、内容整理チームで検討するポイントが減っているのであれば、そこで考えてはどうか。
横田委員	・ 芝委員の意見は、5 P i c s の順番に、演習が展開されていない課題のことか。
芝委員	・ 順番を変えるとといった微調整は、初任研チームで話し合っただけで良いかと思うが、それに限らず、もう少し広い目で研修全体を見て、今の形で良いのか等検討する場が、必要なのではないかとという視点で発言した。
横田委員	・ とするならば、蛭川委員の発言にもあるとおり、ファシリテーターもやっこの形に慣れてきたので、ここで変更すると混乱することにもなりかねない。もうしばらくやって、検証していくということもありかなと思った。
安井副委員長	・ 主任研の振り返りをしたときに、やはり研修をつくる側として、どこを目指すのが難しいという話になった。 ・ 東京都が主催としてこんな相談支援員になってほしいという、ビジョンを示し

	てもらえると、そのビジョンを目指して、研修をつくっていける。目指す姿はあるが、それはあくまでも相談支援専門員の全体像なので、もう少しコアな部分の目指すべきものが、あっても良いのではないかという意見もあった。先ほどの芝委員の意見も含めると、研修全体で、何を東京都の相談支援専門員に求めているのか考えていくことも、必要かもしれない。 ・研修自体は、微調整は必要だがおおむね出来上がっているので、難しいかもしれないが、検討委員としてはそのような議論ができると良いと思う。
吉川委員長	・本来、検討委員のあるべき姿についての議論もあるかと思う。目指す姿V e r . 8 がそれを意味していると、受け取っていたが、来年度、今一度それを確認をすると同時に目指す姿V e r . 9 は別な人たちへ向けた整理をしていることを引継ぎ事項として受け止めた。 ・次に、人材育成チーム、安井副委員長から報告を願いたい。
安井副委員長	・資料1の2ページをもとに、人材育成チームの報告をする。 ・実施した内容としては、初任研、現任研の実習説明会がメインとなる。 ・1－①－黒丸三つ目について、今まで受講者はいたが、説明会に全く参加のない自治体が数か所あり、そこへ声かけをした結果、一回も参加のない自治体はなくなった。 ・あわせて、実習説明会を動画にして、インターネットで配信している。 ・また、初任者研修の地域実習終了後、自治体と実習対応者向けに実習の事後アンケートも実施した。いただいた意見については来年度検討していきたい。 ・引継ぎ事項、一つ目が、実習説明会の改善について。新カリキュラムに変更後、ファシリテーターや実習対応者の中に、現行の研修内容を理解していない方が若干いて、その方々がスーパービジョン（以下「S V」という。）をすると、難しい場合があると聞いている。実習対応者がS Vをする際には、研修の枠組みの理解が必要だが、実習説明会だけでは補えないので、演習指導者養成研修（以下「演指研」という。）に参加して欲しいという声かけも必要ではないかと感じている。 ・次に3ページの内容について。初任研、現任研の内容はボリュームがあるので、研修の目的や内容、実習について簡潔にまとめたもの、例えば対比表のようなものがあると良いのではないかという話しが出ている。 ・また、実習対応の方法も、自治体によって差があり、事前に実習対応者を集めて説明会をしている自治体、個別対応しているところ、研修後も、振り返りをしているところしていないところなど様々。良い悪いでなく自治体の取組みを知ってもらう機会も必要という意見が出ている。 ・また、研修の内容にも関わるが、受講者も、普段顔が見えていない事業所などに、急に行くのはハードルが高いため、初任研の研修5日目後の実習に出向く前に、実習の心構え等について話せる時間が取れると良いのではないかという意見があった。ただこれについては、研修のプログラムの変更も必要になるか

	もしれない。 ・もう一点、主任研修で使用する地域資源の様式について、あまり研修内容につながっていなかったり、目的が不明瞭だったりしているので、実習説明会の際に、目的等を説明する必要があるのではないかとの話もあった。 ・また、ファシリテーターについて、力量に差が出てきている印象がある。先程も触れたように、研修内容を理解いただけていない方には研修内容を、もう少し簡潔に伝えること、また、ファシリテーターとしてコメントを求められる場面で、受講者の様子を見て話ができるように、説明会等で、ポイントも伝える必要があると思う。ただ、ファシリテーターは、演指研の受講者もいる。講義を受けて、いざ実践となったときに、不安が大きいという話もあり、そこをフォローする仕組みも検討が必要。 ・実習説明会のアンケートの質問項目についても再検討が必要。 ・最後に、他チームから意見が欲しいことは、先ほども触れたとおり、初任研の地域実習に行く前に、地域実習の心構えを伝える時間が取れないだろうかということ。もう一点、地域実習を担う方が、演指研に参加をしてもらうための呼びかけや仕組みができないか、ということについて、皆様からご意見いただきたい。
蛭川委員	・安井副委員長の報告にある、研修それぞれの目的を整理することや、地域実習の違いを明確にする、というのは確かにそのとおりと思う。目指す姿Ver. 8の2ページ目の研修の仕組みとして整理してきたが、分かるようで分からない。内容整理チームとしての、残された課題はこういうことかもしれないと感じた。 ・初任者研修5日目の時間云々に関しては、ファシリテーターを担った方に、様子を思い出してもらいたい、1 グループの人数が最大7人。6人や5人になった場合は、時間が余りその活用はファシリテーターに任せているので、その際に実習の話をしている方もいるのではないかと。1 グループの人数を6人にできると良いが、難しいと思うので、時間が余ったときは、ファシリテーターに、時間の使い方として実習に向けての心構えを話して欲しいとは言えると思う。
横田委員	・今以上に、初任研の演習の時間を削るのは難しい。やるとしたら、メインファシリテーターの説明時間をもう少し端的にするしかないが、理解度が下がる可能性は高いと思う。
高江洲委員	・心構えを話す時間を作るのは難しいかと思うが、実習のガイドを念押しするなどアナウンスを強めにするのはどうだろうか。
芝委員	・演習時の実習ガイダンスでは、疑問点等があれば翌日以降に質問するようになっているが、本当はその場のグループワークでわいわいと、心配事など話せれば良いと思い、今回提案した。ガイダンスだけでは理解につながっておらず、実習が難航することが多いというのが現状。
事務局	・もともとは、発表時間を少し減らして捻出してはどうかという話があった。初

	任研受講者は特に、実習で「SVを受ける」のではなく、計画書の書き方を具体的に教えてもらえると、地域資源を具体的に教えてもらえていたのに、教えてもらえなかったと感じている方がいるということ、今回知った。研修の実施側と、受講側の受け止めに齟齬があるので、その解消も、ここに含まれると事務局としては考え、人材育成チームの話合いの際にお伝えした。
吉川委員長	・実習に期待することのイメージが、非常に異なる人がいたということかと思う。学生の実習指導をしていても、15分やれば解消するという時間的な問題ではないようにも思うが、どうだろうか。
古橋委員	・実習に行く前の受講者の悩み、もやもやについて二つ考えた。 ・一つは、実習前の日程で受講者から発散してもらったり、それをファシリテーターから訂正してもらう時間が必要と思った。 ・もう一つは、もしかしたら受講者が抱えているものが、自治体側の課題かもしれないということ。地域の主任の出番なのかもしれないが、自治体側で、悩みポイントは回答する話で、一概にこちら側で、全部引き取るという話とも違うかもしれない。そうするとグループワークで発散してもらうことで、何かわかるかもしれないと思った。推測ではなく、実際にどういう難しさや悩みなのか、明らかにできると良いと思った。
吉川委員長	・実際にどういう悩みや、不安があるのかについて、所感以上のものはあるのか。
古橋委員	・判断材料としては、受講者が持参した課題から分かると思う。
吉川委員長	・理解していないかもしれない、ということが見えてくる可能性もあるということか。実習前の不安は、確かに解消した方がより良いのは事実だが、そこにどういう丁寧さを持って臨めるか。
蛭川委員	・できることが限られるが、示唆することはできると思う。今までのスライドは、実習は当たり前のこと、頑張ってくださいと背中を押すだけだった。受講者は不安を感じているということ、今回気づかせもらったということ、踏まえ、来年度のガイダンスや実習対応する際は、不安に思っている方向けの対応方法を伝えられると、少しは一人で考えなくても済むのかもしれない。 ・来年度の初任研チームの話合いでは、この話は伝え、5日目を担当する人にも、少し工夫をしてもらいたいということは伝えられると思う。
吉川委員長	・ありがとうございます。よろしくお願いします。確かに、頑張ってもらっしやいとだけ言われると、困っても言えないかもしれない。
古橋委員	・地域実習については、今までも話題になってきたが、受講者が分からないことがあることは普通。スーパーバイザー側の問題点が、あるのではないかな。 ・地域ごとに、その地域の実習方法を説明する場があると良いのではないかな。江戸川区では実施しているが、ほかの自治体はどうしているのか、知る機会がなかった。江戸川区では元検討委員が、旗振りをして、事業所も一緒に、主任やスーパーバイザーが集まって事前の心構えや、認識のすり合わせをやっている。ほかの区市町村でもスーパーバイザーの準備は、大事なのではないかな。ただ、

	それが難しい場合、その手前で、何かしてほしいという話にもなるかと思う。
吉川委員長	- 自治体への働きかけは旗振り役がいないと難しいのかもしれない。でも、江相連にそれができたということについてはとても共感する。 - 地域実習の担当者がファシリテーターとして研修に関わっていただくことができる仕組みということについて意見はないか。
美濃口副委員長	質問だが、具体的に言うと、ファシリテーターを担わないと、地域実習が受け入れられないという縛りをかけるのか。
安井副委員長	- そこまでは考えていない。ただ発端は、その実習対応者が、研修自体を理解できていない場合、実習説明会だけでは補えないので、演指研を受講することで、研修全体のことも理解できるし、ファシリテーターについても理解できるのではないかということだった。演指研申し込みには、検討会委員や国研修了者、自治体からの推薦が必要だが、基本的には手挙げ方式なので、受講してもらいたい人へは声掛けが必要。 - もう少し広い意味で参画してもらうために、仕組みが必要、または、手を挙げやすい仕組みもあると良いという話もあった。具体的には浮かばないが、そういうファシリテーターになってもらう方たちの演指研への参加の促しということを、考えてもらえたらと思う。
美濃口副委員長	今年度、SVをテーマにした専門コース別研修を実施した際の、受講者の感想の中に、「地域実習をやる人はこれを受けるべきだ」というのを見たときに、やってよかったと思ったし、受講してもらえたほうが良いと思った。演指研も同様に、受講をマストにはできないが、ベターなものとするしかないかと思う。
吉川委員長	必須か、促しかの2択になるか。
稲垣委員	演指研担当として考えると、今後、地域実習を担当する方が受講するとなると、主任やある程度経験のある方も増えてくる。一方で、真っさらな受講者もいるとなると、どうすればよいか悩む。現在の初任コース、現任コースの2段階から、今度は3段階に分かれるのか、演指研そもその姿を考え直さなければならぬのか。同じベースで、数時間しかない研修を行うのはとても難しいというのが現状。
安井副委員長	確かに、難しい。ただ、やはり研修自体の構造をきちんと理解してほしいというのは根底にある。研修自体を理解してない人がSVをすると、持論を展開したり、自分の経験を話すというようなことがあったりするので、演指研に重きを置いても良いのかなと思った。新たな研修を作ることは難しいと思うので、演指研への促しがあればと思う。
横田委員	- 一番は演指研に参加する、しないではなく、研修の内容を理解してもらうためのレクチャーをする場が必要ということかと思う。でもそのために、研修をさらに増やすのは難しいので、どうしたらよいだろうかということだと思う。ただ、演指研の内容自体は変更する必要はないのではないかな。 - 今のカリキュラムで、初任研の流れやポイントさえ理解してもらえれば良い。

	初任研にしる、現任研にしる、ファシリテーターをやった後に、地域実習を受け入れるという形が、一番イメージしやすい。せめて、内容を理解するには演指研を受講してもらうのはどうか。演指研担当の芝委員や稲垣委員はどう考えるか。
稲垣委員	・今、演指研の研修の仕組みは、現任と初任のコースが午前中に同じ内容を受講した後、各コースにわかれており、両方のコースを網羅して学べないので、研修の立てつけを考える必要があると感じた。 ・また、演指研は、ファシリテーションについても学ぶ研修なので、その部分だけでも地域実習担当者が受講できると良いと思った。
美濃口副委員長	・例えば演指研や専門コース別研修の通知を東京都から出すときに、実習指導者は、どちらかを受講することが望ましいというかたちで出すことは可能だろうか。
事務局	・望ましいとまでは書いていないが、ぜひご参加くださいと、いわゆる促しは既に行っているが、我々の意図は、伝わっていないのかもしれない。
美濃口副委員長	・何かしらの縛りを課しないと、なかなか出席しないかと思う。
事務局	・実習対応者は、各区市町村が選定しているが、区部のように、人材豊富な地域は良いとしても、市部のように、そもそも主任もおらず、実習対応者がいないと言っている自治体もあるので、そこにさらに縛りがかかると、実習対応者そのものがないという話になりかねないので、難しいところかと思う。
藤田委員	・私の地域は、なかなか実習対応できる主任がいない小さな市。なおかつ基幹相談支援センターが設置されていない地域では、一般の相談支援事業所の相談支援専門員が初任研でも、現任研でも、恐らく同じ担当者が地域実習を担っている状況。 ・人材育成チームで行った、アンケート結果などを見ると、例えば、実習対応者自身が初任研を受講したときには、今のツールを使用していなかったため、実習対応時に持論展開する方もいたように思う。 ・地域実習をする際に、初任研の場合は、このツールを理解している必要があるが、実習説明会でSVのポイントとして使用するツールの説明はしているが、なかなか伝わらないために、差が出ていると思う。このツールを使える、知っている以外にも、受講者自身の新しい発見や、気づきを得られるようにする必要がある。 ・正直、小さな市町村の担当者は忙しくて現実的には難しいが、本来なら研修のファシリテーターを担い、研修の構造なども理解してもらった上で、実習対応してもらえればと思う。しかし、それが難しいというのであれば、この実習は何のためにするのかということを、受講者にも、スーパーバイザーにも、より明確に伝える必要があると感じた。
神作委員	・せっかく区市町村向けの実習説明会を動画でも配信しており、研修の流れやツールも説明し、ファシリテーターのやり方も、スーパーバイザーのやり方も説

	明しており、実はそこで網羅しているはず。しかし、時間としては2時間もないので、それを見たとしても、初めて担う人が自分のものにするのは難しいと思うので、そうなると、ファシリテーターとして、自分で実感をした方が、よりよい実習担当者になれると思った。 - また、実習説明会について、スーパーバイザーが不安なら出席して欲しいということを、もう少しアピールしても良いと思う。 ファシリテーターや、これからスーパーバイザーになる人に、直接区から資料などを送るのは難しいかもしれないが、公開制にするなど、周知の方法を充実させる方法もある。 - 話を聞いていると、説明としては色々やっではいる。とても短い時間だが、説明は多分網羅していると思った。ただ、この東京都という大きな地域の底上げをしていくには、どうしても時間がかかるし、幅も広がってしまうので、諦めたわけではないが、できるところをもう少しやっていくと考えても良いのかなと思った。
吉川委員長	演技研の建て付けについては、先ほど稲垣委員の話にあったように、どこに、誰が、どうやって来てもらうのかという3点がある。どうやって、については、マストにはできないので、ぜひ参加してほしいという促しから、参加が望ましい、という程度に格上げしてみる。微々たる努力だが、それはあっても良いと思った。また、動画を見て理解してもらうというプロセスを、どう組み入れられるかについても検討してみても、どうかと思った。
事務局	ご意見については、各チームと共有しながら、具体的に検討していきたい。
吉川委員長	それでは、研修ごとの検討チームの進捗状況報告をお願いしたい。
事務局	- この間、動きがあったチームについてのみ、報告する。 - 現任研修チームは、現在、令和7年度の研修実施に向けて、チームで打合せを行いながら、研修ノート、スライド、ツール等を作成している。同時進行で、講義動画の準備もしており、意思決定支援の講義に関しては、登壇者の顔合わせ、打合せも行い、資料の作成を進めていただいている。 - 主任研修チームは3月6日に最後日が終了し、3月10日に振り返りも実施した。先ほど、安井副委員長からもお話があったが、次年度に向けての課題も何点か具体的に出てきているので、それに関しては、次年度のメンバーで検討していけるよう、引継ぎ事項として残していきたい。 - 初任者研修チームは、2月5日に全日程が終了し、2月10日に振り返りも実施した。5 P i c sをはじめとして、演習の進め方等の意見も出た。また、サポーターの参加についても、チームから意見をいただいたので、こちらも、次年度につなげていきたい。 - 演技研については、2月7日に初任コース3日目終了し、全日程が終了した。チームの稲垣委員、芝委員とも話したが、研修当日は、グループワーク時、受講者も率先して板書をしたり、司をしたりしていて、良い雰囲気で行われた。

	この研修に関しては、今年度から、初任コースと現任コース、2コース制になった。昨年度、この形を検討会の場で提案した際に、初任コースは、1日目が6月、2日目が9月となり、間が空くことが不安視されたが、1日目の講義動画をオンデマンドで視聴できるようにしたことや、2日目にあたるファシリテーター説明会を今年度から会場で実施し、グループワークで先輩のファシリテーターから丁寧にサポートしてもらったことで、乗り切れたと感じている。チームでも、来年度も同じ流れで実施できれば良いのではないかと話している。 この研修に関しては、申込者も多数で、盛況だったが、修了者が次年度もファシリテーターを担っていただけることを、チームメンバー、事務局とも切に願っている。
吉川委員長	・報告についての補足、質問があればお願いしたい。
横田委員	・演指研に関して、主任研修受講者で、まだ受講していない方が結構いた。それは良くないと思うので、主任研を受講した人は、積極的に受講してもらうようにしないといけないと感じた。
安井副委員長	・確かに、主任研担当者としては、そもそも演指研を受講していない人が主任研を受講しているのも、どうかと思う。ただ主任研修の受講者のレベルもまちまちで、受講後に地域で主任として活躍する方もいれば、研修受講して終わってしまう方もいるので、難しいなと思いつつ、横田委員の意見のとおり、演指研はマストにしても良いのではないかと考えている。難しいのは分かるが、主任研受講者が、地域できちんと人材育成をしていく仕組みは必要で、その一つが演指研だと思う。 ・本当はそれができてきたら、地域の主任たちが自分たちでやっていく仕組みができれば良いが、そこまで至っていない。
横田委員	・主任研でも、「人材育成の地域での展開」の講義で、主任研修修了者が各地域に帰って、その地域で人材育成や研修を担ってほしいと伝えている。そうした時に、法定研修の演習指導ではそのノウハウなど学べるという説明をしているので、そのことをしっかり理解してもらう必要があると感じた。
安井副委員長	・演指研を受講するのも良いが、主任研修受講者に事後課題として、受講後に実際に地域で取り組んだことについてのレポートを提出してもらうのはどうか。難しいとは思いますが、後の部分につなげる意味では、研修が終わったから終わりではなくて、実際に取り組んでももらう仕組みも、今後検討しても良いのかと思う。
吉川委員長	・検討事項が多数出たので、来年度に引継ぐ。 ・他、質問、意見が無いようなので次の議題にすすみたい。

(2) 令和6年度東京都相談支援従事者研修検討会 活動報告事務局案の確認

佐藤委員長	・検討事項2について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	・こちらの資料については、本日の議論は反映できていないことをご理解の上、

	聞いてほしい。また、詳細は資料をお読みいただきたい。 ・ 1 ページ目、活動状況等、検討体制については表のとおり。 ・ 活動成果 1 については、実習説明会の実施、動画配信等、先ほど安井副委員長から報告いただいたとおりだが、先ほどなかった事項としては、デモシナリオを変更していただき、分かりやすい内容にしたということ。これは、昨年度に次年度取り組みたいこととして挙がっていた内容だった。 ・ 活動成果 2 については、補助教材としての動画配信の実施について。内容整理チームからの報告のとおり。次年度も同じものを配信したい。 ・ 活動成果 3、「私たちが目指す相談支援専門員の姿」について。もともとは V e r . 9 とすることが目標だったが、行政職員を対象としたものとした。意見をもらいながら、引き続き作成していく。 ・ 活動成果 4、研修と検討会の連動については昨年度と同じ内容。研修と検討会をクロスさせるというのは、良い仕組みである一方、委員の皆様には負担を強いているという側面があった。今年度は、検討会当日に、できるだけ課題別チームの話合いの時間を持つようにしたことで、他で集合する時間を減らすことはできたかと思う。ただ、検討会の検討事項が増えた際には、この時間を持つことができなくなるので、引き続き課題とは思っている。 ・ 活動成果 5 は、国研修の参加と報告としている。 ・ 次年度に向けては、各チームからの報告を、主に記載した。 ・ 引継ぎ事項 1、「実習説明会の検討と実習対応のバックアップについて」は、1 点目、地域実習の効果的な実施を目指し、演指研の受講を働きかける。2 点目、初任者研修、現任研修の目的、内容を整理して、分かりやすくまとめたものを作成する。3 点目、地域実習について、各研修の実習の違いを比較して確認できるようなものを示す。4 点目、地域実習について、実習説明会で区市町村の取組を伝える機会をつくる。5 点目、実習対応のボトムアップにつなげられるよう、引き続き S V をテーマにした研修を実施する。6 点目、初任者研修について、受講者へ実習の心構え等を伝える時間を持つことを検討する。 ・ 引継ぎ事項 2、「ファシリテーターの育成の検討」。1 点目が、演指研受講者が、実際にファシリテーターを担う際に不安が大きいという声があることから、フォローができる仕組みを検討する。2 点目、ファシリテーターがスキルアップできるよう、ファシリテーター説明会の内容を検討する。 ・ 引継ぎ事項 3、「行政向け、私たちが目指す相談支援専門員の姿の作成」。引き続き資料を作成して、まずは実習説明会などの場で配布できるようにすすめる。 ・ 引継ぎ事項 4 については、ここまでの議論には出てこなかったが、「初任者研修のサポーターの参加について検討」としている。目的、方法、手順等を検討していく。
吉川委員長	・ これは、報告書となるものなので、質問や訂正があれば発言願いたい。
安井副委員長	・ 今年度から演指研の形式が変わり、初任研と現任研を一緒にしたり、間で動画

	を見られるようにしたことで、とても良くなったという話もあったので、それを活動成果にすると良いと思うがどうか。
事務局	・活動成果２の丸二つ目に、動画を見返せるようにしたという内容は記載したが、ここに演指研の構造の見直しをしたということも付け加えたいと思う。
吉川委員長	・そのほか、なければ、今のご意見を基に文言訂正をして進めたい。

（３）令和７年度検討体制について

吉川委員長	・次に資料３、令和７年度検討体制について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	・検討チーム編成案について、まず全体像としては、研修別と課題別チームの双方に所属する。それぞれの動き等は、検討会で共有、議論する。負担軽減については、教材作りを協力者メインにお願いする案を、記載してはいるが、昨年の議論の中でも、検討委員がそこに加わらないと、研修の作成過程が見えにくくなってしまうのではないかという意見があったり、協力者にも、大変忙しい中、協力いただいている状況で、負担が増加してしまうという問題もある。すぐに解決できる問題ではないので、引き続き、検討としたい。 ・新しい人材に加わっていただくことについては、検討委員の皆様の推薦や意見をぜひいただきたいと思っている。 ・研修別のチームについても、本年度と同様だが、次年度は、専門コース別研修１を新たな内容で行うため、委員を配置した。内容については、前回の検討会で、議論いただき、結果として、サビ管の検討会と共同して児童をテーマにした研修を実施することとしたので、併せて報告する。 ・課題別のチームについては、次年度への引継ぎ事項にあるとおり、初任者研修へのサポーターの参加について検討を進める必要があるため、時限的に、サポーターＰＴを作って、３本柱で進める案とした。これについては、初任研チームで、教材作りと並行して議論するには負担が大きいことが理由。ＰＴに加わる方は、他の課題別チームには加わらないことを想定している。 ・それに伴い、内容整理等、人材育成の人数が当然少なくなるが、美濃口副委員長から、内容整理の報告をいただいた際、現時点では、新たなテーマがなく、引き続きの課題は一つだけなので、規模を縮小できるのではないかという話があり、この案とした。 ・意見をいただき、了解が得られれば、具体的なメンバー編成案を、検討委員の皆様とも共有したい。
蛭川委員	・サポーターチームに関連して、当初、内容整理の課題はほぼなくなる想定だったが、安井副委員長の報告にあるように、Ｖ e r . ８の研修の仕組みの表を変更するとなると、言葉のチョイスや図の構成をもう一度検討する必要がある出てくる。そうすると、内容整理チームの人を減らすと負担が大きくなってしまわないか。
吉川委員長	・Ｖ e r . ８はこれで完成にできないだろうか。福祉職の皆様は、問題があると

	解決しないではいられなくなってしまうと思うが、全てを追いかけると過労になるので、取りあえず置いておくという手はあると思う。
蛭川委員	・その合意が皆様から得られれば、内容整理の課題としては行政向けの目指す姿の完成とし、あとはサポーターの導入に向け、サポーターチームで検討していく。サポーターの導入後は、そのときの課題を扱えると良いと思う。 ・私や藤田委員、高江洲委員は、身体障害をメインに、当事者が活動しているところを背景に参加しているが、知的障害や精神障害のサポーターの導入となったときに、現在のカリキュラムで、どのように導入ができるかは、知的分野なら芝委員、精神分野からどなたかに意見をもらえるようなチームを作れたら良いと思っていた。
事務局	・一点お伝えし忘れてしまったが、資料3の【研修全体を支える仕組みづくり】に関連して、障害福祉主管課など研修の実習の対応をする部署から、希望があれば、見学できる機会を設けるのはどうかと考えているが、どうか。
蛭川委員	・見学というのは、単なる見学か、それとも、グループに入ったりして、会場内を歩いて見学している人がいるイメージか。
事務局	・まだ具体的には考えていないが、個人的なイメージとしては、会議の傍聴のようなイメージでいた。というのも、研修会場については、次年度も大変密な状態になる予定であることと、1グループにファシリテーター含め8人いる状況になるので、その中で、外部の方が自由に動くのは難しいと感じている。それについてはまた相談しながら進めたい。
蛭川委員	・私自身が今年度、会場が狭く、各グループを見ることができなかった。そうすると、各グループが何を話しているのか、ファシリテーターのどのような助言で、どのような気づきを得ているのか全然分からない。1グループをずっと見てこそ、こういうやり取りがあって、実習の成果がこんな風になっているということに気づける気がする。おそらく傍聴席からの見学では、グループワークの内容は、分からない。
事務局	・いただいたご意見を基に、引き続き検討していきたい。 ・研修会場の確保の問題は切実な状況があるので、場合によっては、メインファシリテーターが説明する部分を見学し、各研修のツール等だけでも理解できるのであれば、それだけでも見学の意味があると考えていた。
吉川委員長	・見学する時間とそうでない時間を設けるなどして、効果的になるよう工夫が必要かと思う。各グループに入って、何に対して気づきの瞬間があるのかをつかみ取ってもらえると良く、漫然と眺めている方法は、あまり賛成はしない。効果的な見学方法については、検討が必要と感じた。 ・その他、意見なければ次の議題にすすめたい。

(4) その他

吉川委員長	・(4) その他について、報告事項等あれば、お願いしたい。
-------	---

美濃口副委員長	・ 今月、国研修のフォローアップ研修があり、その中で次年度にむけ、変更点があったので、共有したい。 ・ 一点が、国研修の会場について、これまで所沢の国立障害者リハビリテーションセンターで実施されていたが、次年度以降は、都内実施とのこと。現在会場をさがしているとのことだが、東京都からは参加しやすくなると思う。また、大都市部は、参加者を4名から8名にするという話も出ており、より参加しやすい環境が、整いつつある。 ・ もう一点、厚労省から都道府県に研修の補助が出るとのこと。研修の実施主体に、委託できる予算がどうやらついたということで、専門コース別研修なども、そういった部分に含まれるような話があったので、SVを1日だけ実施するのではなく、その後に、SVを体験するような仕組みをつくれると、より効果的と思った。
吉川委員長	・ それでは、今日、事前に用意した議題は、以上となるので、進行を事務局にお返しする。
事務局	・ 吉川委員長ありがとうございました。 ・ 今回は、今年度最後の検討会になるので、事務局の地域支援課長より、ご挨拶させていただく。
事務局（地域支援課長）	・ 令和6年度の東京都相談支援従事者研修について、無事、全ての研修を終えることができた。準備に多くの時間を割いていただいた検討委員、研修協力者の皆様に御礼を申し上げる。 ・ 延べ200名を超す演習講師の方々にご尽力いただき、現任研修は418名、初任者研修は543名の方に修了していただくことができた。また今年度は、演指研の構造の見直しや動画配信をするなどの工夫をしていただき、実習説明会についても、定着してきているかと思う。 毎年、多くの方々に支えられ、研修が成り立っていることを改めて実感した。研修事務局一同御礼申し上げます。 ・ 今回、研修検討会の副委員長を務めていただいた、安井副委員長、美濃口副委員長が今年度、職を辞任されるという意向を伺った。安井副委員長には令和4年度から3年間、美濃口副委員長には令和5年度から2年間委員を務めていただいた。お二人は今年度、人材育成チームや内容整理チームのリーダー兼副委員長も担いながら検討会を牽引していただき、感謝の念に堪えない。検討委員としての役割を終えられても、引き続き、東京都の相談支援従事者研修に力添えいただきたい。 ・ それでは、お二人に退任の挨拶をいただきたい。
美濃口副委員長	・ 当初、単年度でとお願いをして、承諾いただいた。 ・ 自分が分かっていなかったことや、地域実習に対応する際、生きてくると実感し、検討委員をやる前とやった後では、見える風景が違くと体感した。 ・ なので、なるべく検討委員や、ファシリテーターなど、研修の全体像を理解し

	ていただく人を、仲間として多くつくっていくことが、一番全ての問題解決につながっていくと思う。最後なので、私の体験と所感を述べさせていただいた。2年間ありがとうございました。
安井副委員長	・ 3年間、あっという間だった。恵まれた環境の中で検討委員をさせてもらい、とてもよかった。 ・ 当初から、3年という期限は決めていた。検討委員になってから、研修全体のこと分かるようになり、自分の事業所だけでなく、東京都も何とかしなければならぬと感じていたので、少しでもできたことがあれば良かったと思う。 ・ 一点心残りは、検討委員の負担軽減について。過去の委員が一生懸命務めてきたことは分かっているが、負担の多さは端から見ても分かっていた。同じことを求められてもできないし、今後の方に同様のことを求められないはずだったと思っていた。3年間負担軽減のことを言い続けたが、なかなかできなかったことは心残り。最後に本日また様々なことを発言してしまい、負担を増やしたと反省もしつつ、ただ検討委員も変わっていかなければならないので、次を担う方たちに、検討委員を快く受けてもらえるよう、検討委員は大変だというイメージを払拭したいと思っていたが、力及ばず、申し訳なかった。 ・ 後身の方々にも頑張っていたきたいので、陰ながら、できることをしたい。3年間、ありがとうございました。
事務局	・ 委員の皆様、ありがとうございました。 ・ 最後に事務連絡をする。本日の配付資料と議事録要旨については、メーリングリストで確認をお願いするので、協力願いたい。 ・ 以上で閉会とする。検討会へのご参加、ありがとうございました。